
ラブカクテルス その6

風雷人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラブカクテルス その6

【NZコード】

N7972C

【作者名】

風雷人

【あらすじ】

今宵は秋の味覚と香りをオリジナルのカクテルにしてお待ちしております。ご賞味あれ。

いらっしゃいます。
どうぞこちらへ。

本日はいかがなさいますか?
甘い香りのバイオレットフイズ?
それとも、危険な香りのテキーラサンライズ?
はたまた、大人の香りのマティニー?

わかりました。本日のスペシャルですね。
少々お待ちください。

本日のカクテルの名前は秋の刀でござります。

「じゅつくつじゅつ」。

拙者はサンマでござる。

とは言つても前歯は出つ歯ではござらん。
以後お見知り置きを。

我らは、今日もこの広い大海原を主君と共にさすらつて候。
我らは誰が名付けたか、人間界では秋の刀の魚と書くそつでござる。
粋なまねをしてくれるでござる。

我ら一族はそのせいか、武道の道に志をおき、日々精進の生活。
腰の柔い魚とは同じ扱いなどに決してしないでいただきたい。

拙者はこの軍勢の中では、主君の次に権力がある、軍隊長である。
皆を指揮し、他の魚の大群を避けたり、敵との戦の時に一斉に大きな魚の形を作つて、威嚇するよう指示したりと、なかなか忙しい役

職なれど、拙者はとても氣に入つておつたし、下の者共も、あらく
者ばかりだつたが、豪傑揃いの名家の出のものばかりで、氣持
のよい者ばかりでござつた。

そして我らの主君は堂々たるお方で我ら一族の中ではマレに見る輝
くウロコの持ち主、顔立ちもそんじょそこいらのサンマと違い、そ
の鋭クトガツた先はあのサメですら怖じけ付く程の立派なものでござ
つた。拙者は主君に惚れ、一生お供することを、あの凜々しいお
姿を見る度に誓うのござつた。

我らは時に、違う魚たちと一緒に行動することもござつた。
それらはイワシであつたり、アジであつたり。だが、一番氣の合つ
奴らはサバでござつた。

奴らとは、共に狩りをし、共に敵と戦いと、なかなかイキが良よい
のでござつた。そして、そのサバ軍の軍隊長は拙者の親友でござる。
奴めはかなりの剛腕で、あの尾ひれのカウンターをくらつたなら、
拙者も危ないくらいござる。

されど、拙者の鋭クトガツた顔の先でのストレートも負けてはござ
らんが。

それはさて置き、久しづりに奴らとすれ違ひ挨拶を交すと、サバ軍
は人間たちがこの辺をうろつこしているから氣をつけるように教えて
くれたのでござつた。

拙者は礼を言つと、すぐにお方さまに知らせ、指示を仰いだのだが、
実は時すでに遅しでござつた。

拙者はタダならぬ氣配にとつて皆に散るよつに命じたが、黒く大
きいものが我らを四方八方から襲つてきた。すかさず、拙者はお方
さまを力一杯突き飛ばし、その中から弾き出した。
そして拙者はあえなく捕まつてしまつたのでござつた。

気が付くと、拙者は狭い海の中にいたのでござった。

いや、海ではござらん。初めて見るこれが、噂に聞く壁と言つものらしく、拙者はその固さに攻撃を諦めるしかなかつたのでござる。

しばらく我らはその狭い壁とやらの中で揺られていたが、やがて海水から放り出されたのでござつた。

初めて出た海の、いや水の外はかなり苦しく、跳ね回つてみたがやがて拙者は力尽きたのでござる。

周りの者共はあの世へ旅立つてしまつものばかりだったが、拙者はそう簡単にくたばりはしなかつたのでござる。

拙者はまだ田の中で生きていたのでござつた。

そのうち、拙者は氷に包まれ、他の魚たちと一緒にどこかへ連れて行かれたのでござる。

そこはスーパーと言つ、やたらに寒くて眩しくて、なにしろ人間たちが沢山いるといひでござつた。

拙者は本田の田玉と言つコーナーに置かれたが、そこはやたらに人間が代わるがわる顔を覗かせる不思議なところでござつた。

そこへ、人間の小僧つ子がやつてきて、拙者をつついた。

拙者は失礼なはからいにムカツとしたが、これも精進。

しかしその子供はイタズラを止めないので、親を見ると、ほっぽりかし。

拙者は堪忍袋の尾ひれがキレ、子供の田玉を睨み、心を動かしたのでござる。

我は刀。振り回して、親を叩くべし。かあつ！

子供は拙者の隣のサンマのしりの部分を掴むと、思いつきり親向けて勢いよく振りかぶつて頭に叩きつけたのでござる。

拙者も、周りの人間も大笑いしたのでござつた。

子供は叱られ泣いていました。男のくせに弱虫なことじゅや。

親は店員に謝り、そのサンマを買って、ソソクをと帰つていったのでいました。

拙者はそのサンマに成仏するように祈つてやつたのでいました。

やがて、とつとつ拙者は買われる順番とあになつたのでいました。

それは美しい奥方で、拙者は惚れ込み、渾身の力でウロコの輝きに磨きをかけた。

それを見た奥方は拙者に手を伸ばして袋に入れてくれたのでいました。

拙者はとつとつ料理されるとあになつたが、どうせ焼かれるのなら備長炭でしてはくれまいと、と田で訴えると、その奥方はいさぎよい拙者を七輪に置いた網に載せて、望み通りの備長炭で焼いてくれた。

その赤々と燃える火力は拙者の今までの人生、いや魚生を労つようじました。

拙者は涙の代わりに体の脂を落として泣いたのでいました。

拙者はそれから真つ二つに切られ、秋に呑うセンスのよい和風の皿に飾られたのでいました。

拙者は奥方にめしあがられるつもりがなんと、その主人と思われる御人にもうまそうちからこつちと、奪われたので、その無礼に最後の力を振り絞り、拙者の小骨で奴の喉を刺してやつたのでいました。すると奴は、こつちは骨が多いからやつぱり止めたと、奥方に返しました。

奥方は、あらそお？とつても美味しそうよ。と骨の随までしゃぶつてくれた。

それがしは、そこで昇天したのでいました。

我の人、いや、魚生悔いなし。

おしまい。

いかがでしたか？

今日のオススメのカクテルの味は。

またのご来店、心よりお待ち申し上げております。では。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7972c/>

ラブカクテルス その6

2010年12月20日01時49分発行